

求められる意義発信

「政治判断」で前向きに受け止め 研究者ら



文部科学省への回答を最終確認する日本学術会議幹事会。当初案に複数の修正を加えた＝東京都内

【東京支社】日本学術会議が19日、文部科学省に提出した国際リニアコライダー（ILC）に関する回答は、11月公表の文案に比べて修正が加えられ、計画を推進する研究者は前向きに受け止めた。当初、越年もさざやかれた回答も年内で決着。日本政府の意思表明の国際期限である来年3月7日までに誘致の意義を一段と発信し、前向きな政治判断につなげる考えだ。

【東京支社】日本学術会議は15分間ほい協議。7～18日に行なった外部専門家の確認を経て「査読」では約50カ所の指摘があったと報告した。質疑で、海洋研究開発機構の高橋桂子・地球情報基盤センター長は「学術的に十分価値はあるが、予算など具体的な準備が足りない」ということが「と表現の意旨合いを確認。回答内容を



東北誘致

まとめた検討案の家泰弘委員長（日本学術振興会理事）は「素粒子物理分野での大きなテーマだ。いろいろな

政府へ働き掛け強化

本県選出 国会議員ら

【東京支社】国際リニアコライダー（ILC）の国内誘致を目指す野党の国会議員は19日、日本学術会議の回答を踏まえ、実現に向けて政府への働き掛けなど活動を強める構えを示した。超党派のリニアコライダー国際研究所建設推進連絡会長を務める自民党の河村

建夫氏（衆院山口3区）は「学術的意義と国際共同研究に日本が貢献する意義が認められたことは重要」と受け止めた。その上で「指摘された課題対応を含め、国民への理解を求めていく。誘致実現に向けた最大限の努力を続ける」と強調した。

同副会長で、同党の鈴木俊一氏（衆院岩手2区）は「我が党が望む表記になっていない部分があるのは残念。日本が誘致に関心があり、経費の国際分担などについて協議を行う意思表明が政府から出せるよう努力を継続する」と語った。同党の藤原崇氏（衆院比叡東北）は「日本で初めて取り組むことや東日本大震

災からの復興など学術的な側面だけでは評価できない効果もILCにはある。ポータルは政治に戻ってきたのでしっかりと働き掛けたい」と強調した。国民民主党の階盛氏（衆院岩手1区）は「回答は受け止めるが、反論材料はたくさんあり、これが決め手になるものではない。意義や経済波及効果もあり、い

い結論が得られるように全力を尽くしたい」との見解を示した。自由党の小沢一郎代表（衆院岩手3区）は「宇宙誕生の神秘を探究する壮大な計画で、相応のコストがかかるのは既に分かっている。震災復興という観点も踏まえ、国はしっかりと意向を示してくれることを強く期待している」とコメントした。

菅原茂気仙沼市長は「大変厳しい内容を受け止めている。政府には前向きな方向性を示してくれることを強く期待している」とコメントした。

【本記一画】

条件を協に置けば、意義がある」と説明した。11月に検討案が公表した文案では、ILC研究の重要性について「当該分野の研究者コミュニティで合意が形成されていない」と記したが、最終的には「合意が得られている」と修正。国際経費分担について「見通しなしの誘致決定は危険」との部分は「明らかで

ない点は懸念材料」との表現に落ち着いた。11月に文案に対して事実関係の修正を求めた意見書を出した研究者の一人、東京大素粒子物理国際研究所センターの山下了特任教授は幹事会を別室で傍聴。「学術的意義が明言されたことは大きい。研究者コミュニティの合意形成、国際科学拠点の形成の

東北ILC推進協議会の高橋代表は「11月公表の回答案に対する意見書の指摘が反映され、学術的意義が認められたのは大きい。技術面などの不安も挙げられたが、世界の研究者はやるべきという自信を持っている」と受け止めた。県ILC推進協議会の谷村邦久・県商工会議所連合会長は「答申が年内に取りまとめられたことを評価する」と述べた。

小沢昌記奥州市長は「日本学術会議の審議でILCの学術的意義は認められたと認識している。国際協議に向け、政府の前向きな姿勢の表明を期待している」と語った。

【埼玉支社】日本学術会議国際リニアコライダー計画直し案の検討委員会メンバーは次の通り。敬称略。

▽委員長 家泰弘（日本学術振興会理事、東京大名誉教授）
▽副委員長 米田雅子（慶応大先端研究センター特任教授）
▽幹事 西條辰義（高知工科大学教授、マサチューセッツ工科大学名誉教授）

教授、総合地球環境学研究所特任教授）田村裕和（東北大大学院理学研究科教授）東北大伝司（大阪大教授・理事・副学長）梶田隆章（東京大卓越教授、特別栄誉教授、宇宙線研究所所長）上坂充（東京大大学院工学系研究科教授）杉山直（名古屋大大学院理学研究科教授）永江知文（京都大大学院理学研究科教授）平野俊夫（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事）

「学術的意義認められた」高橋代表は「11月公表の回答案に対する意見書の指摘が反映され、学術的意義が認められたのは大きい。技術面などの不安も挙げられたが、世界の研究者はやるべきという自信を持っている」と受け止めた。県ILC推進協議会の谷村邦久・県商工会議所連合会長は「答申が年内に取りまとめられたことを評価する」と述べた。

「ILCは学術的意義に加え、産業の育成、イノベーションの創出、人材育成など多分野への効果が期待される。受け入れ態勢の整備に全力を尽くす」との認識を示した。

【岩手支社】建設候補地の市長今後の前進に期待

日本学術会議が国際リニアコライダー（ILC）誘致に関する回答書を国に提出した19日、建設候補地の市長は今後の前向きな政治判断を期待した。

勝部修一関市長は「11月の回答案とあまり変わらない。諸課題は以前から挙げられており、国際協議で解決していくべきだと主張してきた。政府は前向きな判断をしてくれると信じている」と述べた。

【岩手支社】建設候補地の市長今後の前進に期待

日本学術会議が国際リニアコライダー（ILC）誘致に関する回答書を国に提出した19日、建設候補地の市長は今後の前向きな政治判断を期待した。